



終戦の日にあたって（党声明）

2015年8月15日

幸福実現党

本日、70回目の終戦の日を迎えました。大東亜戦争で亡くなられたすべての御霊に対し、衷心より哀悼の意を表します。

英霊に哀悼の誠を捧げることは一国の指導者にとって当然の務めです。安倍晋三首相には、いわれなき非難に屈することなく、靖国神社に堂々と参拝されるよう求めるものであり、天皇陛下の御親拝の再開に向けた環境整備に努めるよう要望いたします。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、ひとえに大戦での尊い犠牲の上に築き上げられたものにほかなりません。終戦の日にあたり、この国の来し方行く末に思いをいたし、日本はもとより世界の平和を祈念いたしますとともに、幸福実現党として、平和構築への努力を誓うものです。

昨日、終戦の日を前に、安倍晋三首相が「戦後70年談話」を発表しました。歴代内閣の歴史認識を踏襲し、「心からのお詫び」などを表明したことは、わが党として断じて看過できません。戦後日本に蔓延する自虐史観の払拭なくして、日本の未来は開けないと考えるものであり、安倍談話の撤回をはじめ、正しい歴史観の確立に一層の力を傾ける所存です。

なお、本日、幸福実現党は、党首以下、靖国神社を参拝するとともに、東京・赤坂のユートピア活動推進館にて「英霊への感謝と未来国家創建の誓い」を執り行い、英霊に感謝の誠を捧げるとともに、日本の誇りを取り戻し、素晴らしい国となすための誓いを新たにいたします。
